

# りんごわい性台使用樹（成木）の品種更新法

（園試 果樹部）

## 1. 背景とねらい

りんごのわい性栽培においても新品種の導入や優良系統労働力不足等による労働力配分などから、品種構成の見直しによる品種更新法の必要性が求められている。そこで、わい性台利用樹（成木）の効率的な高接ぎ更新法について検討した。

## 2. 技術内容

- ①わい性樹（成木）の品種更新法は主幹せん去高接ぎ更新とする。
- ②接ぎ木部は地上から1 m前後の主幹部分とし、接ぎ木用穂木は2芽で2～4箇所接ぐ。（図1）
- ③根部と地上部との急激なバランスの崩れを防ぐため1～2本の側枝を残し、更新品種が拡大した後せん除する。
- ④接ぎ木後の生育は旺盛なため高接ぎ更新実施後3～4年程度で更新前まで収量が回復し、収益が上廻る。（表1, 2）
- ⑤品種更新によって大幅な収益が可能である。

## 3. 指導上の留意事項

- ①主幹部への接ぎ木部は切り口の癒合を促進するため切り口の大きさに応じて接ぎ木か所数を決定する。併せて、切り口からふらん病の侵入の恐れがあるため、癒合剤の塗布などで保護する。
- ②高接ぎ実施時は施肥量を減らす。
- ③中間台品種と穂品種の太さの差が大きいため活着後の風折れには注意する。

#### 4. 試験成績の概要

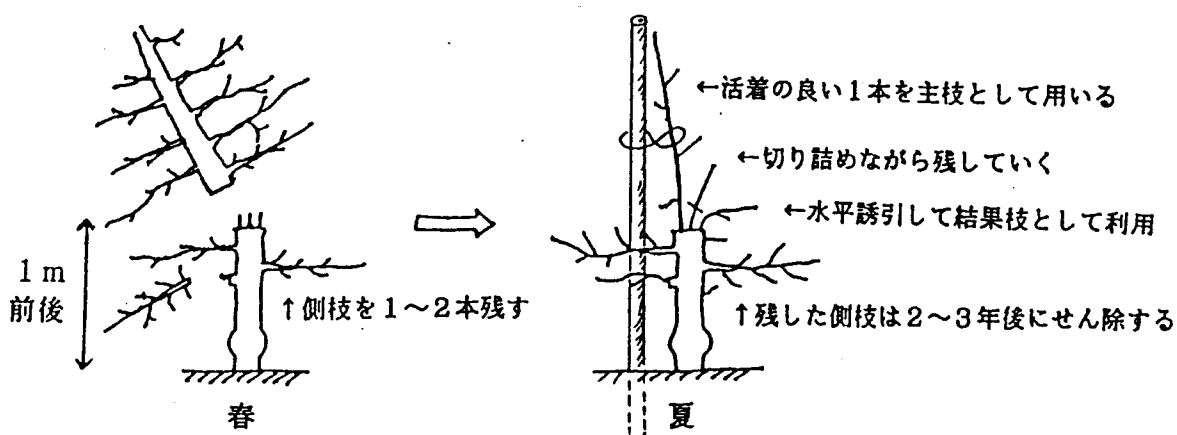


図1 わい性台使用樹の更新法

表1 高接更新樹の10a当たりの収量推移 (拠点試験地)

単位: kg

高接品種	平1		平2		平3			平4		
	中間台 ふじ	高接 品種	中間台 ふじ	計	高接 品種	中間台 ふじ	計	高接 品種	中間台 ふじ	計
さんさ	355	134	1,154	1,288	2,020	289	2,309	2,964	44	3,008
さんさ(BA)	522	185	2,431	2,598	2,797	0	2,797	3,574	11	3,585
ハクナイン	712	62	1,120	1,182	3,197	533	3,730	2,653	344	2,997
ハクナイン(BA)	260	95	844	939	2,464	877	3,341	2,309	266	2,575
北斗	162	-	1,299	1,299	244	910	1,154	966	0	966
北斗(BA)	294	-	1,332	1,332	722	1,143	1,865	655	622	1,277
対照(比)	3,661		4,107	4,107	-	5,006	5,006	-	5,000	5,000

表2 高接更新樹の10a当たりの粗収益 (拠点試験)

単位: 円

高接品種	平1		平2		平3			平4		
	中間台 ふじ	高接 品種	中間台 ふじ	計	高接 品種	中間台 ふじ	計	高接 品種	中間台 ふじ	計
さんさ	63,893	54,813	225,637	280,449	561,871	62,563	624,434	1,008,353	6,415	1,014,768
さんさ(BA)	93,960	75,674	475,323	551,487	777,997	0	777,997	1,215,875	1,604	1,217,479
ハクナイン	128,203	15,217	218,989	234,206	524,308	115,384	639,692	477,009	50,155	527,164
ハクナイン(BA)	46,771	23,316	165,024	188,340	404,096	189,853	593,949	415,158	38,783	453,941
北斗	29,232	-	253,988	253,988	41,777	196,997	238,774	116,596	0	116,596
北斗(BA)	53,028	-	260,440	260,440	123,618	247,437	371,055	79,059	90,688	168,347
対照(比)	658,973		803,025	803,025	-	1,083,699	1,083,699	-	729,000	729,000